

# 2014 年度 E.FORUM「全国スクールリーダー育成研修」 「スクールリーダー育成のための基礎講座」・「学校教育研究フェスタ」 実施の様子

2014年8月19日(火)・20日(水)、京都大学にて「全国スクールリーダー育成研修」を行いました(1日目:「スクールリーダー育成のための基礎講座」、2日目:「学校教育研究フェスタ」)。2日間を通して、北は青森から南は熊本まで、85名の方にご参加いただき、盛況のうちに終えることができました。

## <1 日目> 8月19日(火)

## ●オープニング&自己紹介

研修運営担当の西岡加名恵准教授から本研修の概要説明をしました。参加者同士の自己紹介タイムを設け、 全国各地から来られた方々の熱気が溢れる中でスタートしました。







## ●ワークショップ:「若い教師に伝えたい授業づくりのフレーム」 (担当:石井 英真)

はじめに、小中学校で使われている教科書のある場面から「何を教えることを期待されているのか」ということを グループで話し合うことを通して、教科書とうまく付き合うための基本的な思考の方法を体験しました。その後、授 業づくりの成否を規定する判断のポイントについて説明し、さら小学校「昆虫」を例題にして、授業づくりにおける 判断のポイントについて理解を深めました。

また、「わかる」授業を構想するポイントについて説明した後、「目標を明確化するとはどういうことか」についてグループで話し合いました。さらに「わかる」授業を起点にしながら、今後の授業づくりの方向性についても触れました。







## <参加者の声>

- ・教科内容を「知の構造」を用いて構造化することの意味が理解できた。構造化した上で、この単元が、本時の授業が、どの階層にあって何につなげていく必要があるのかを理解して授業をする大切さを痛感した。具体例がたくさんあり、理解が深まりました。ありがとうございました。
- ・私も中堅といわれるようになり、若い先生への指導を言われておりますが、「何をどこから」がはっきりせず、多忙な毎日の中で指導できておりませんでしたが、先生の話を聞いて、頭の中がすっきりしました。「授業のヤマ」を盛り上げながらも本時の目標を外さない、そのあたりを若い先生に伝えていきたいと思います。



## ●講義:「個性を生かす教育を考える

#### ―臨床心理学的観点から考える発想の転換」 (担当:松下 姫歌)

「主体性を育む」という課題にどのように向き合えばよいのか、臨床心理学的観点から説明しました。一見、主体性がない・乏しいように見えたり、問題行動を起こすような場合でも、実は本人の中には個性的な主体性が息づいています。 それらを見出していくための観点をカウンセリングなどの事例を交えながら紹介しました。







#### <参加者の声>

- ・子どもたちに、いかに主体性をもたせるか、長く時間がかかる場合もあるが、"見守る"というスタンスが大切だと思いました。また、自ら行動できたと思わせる働きかけ、"啐啄"のような内、外の働きかけをしていきたいと思いました。自閉症の生徒に対する認識も変えることができました。
- •3 歳児の事例が、大変興味深く聞かせていただきました。担任した子どもたちの顔が次々と浮かび、その子たちへの対処法のヒント、アドバイス、賞賛をいただけたと感じました。ぜひ、他の年齢の事例もお聞きしたかったです。現場で接する際の力になると思います。

#### ●ワークショップ:「学校教育における場づくりを考える」 (担当:山名 淳・服部 憲児)

はじめに山名先生より、いくつかの事例を交えながら、リスクを減じさせることとリスクをあえて受け入れることとの間に生じるせめぎ合いについて、問題提起がなされました。その後、教育現場における具体的な場面を想像するグループワークを行いました。

次に服部先生よりスクールマネジメントと学校ビジョンとスクールリーダーについて説明がなされました。その後、前半のグループワークで選ばれた話題を舞台にして役割分担をし、内容を実現する方策とプランについて話し合いました。各グループで活発な議論がなされ、最後に話し合いのまとめを報告し合いました。







#### <参加者の声>

- ・バーチャルな職員会議、校内でのお茶室の話のようでおもしろかったです。学校・教委という組織を動かすためには、集団の「空気」を変える必要があります。小さな対話を積み重ねることが大切なので参考になりました。
- ・リスクとチャレンジの葛藤は、本当に現場にいる教員すべてが共有できるものでした。そのリスクは、しかし一方で、ケガないしそれ以上のことが起こったら、たしかに終わります。それを防ぐのは、日頃からの親、生徒、地域、教員の信頼関係だと改めて実感しました。



## <2 日目> 8月20日(水)

## ●オープニング&自己紹介タイム

西岡加名恵准教授の司会のもと、オープニング&自己紹介タイムが始まりました。新たな参加者を交え、前日同様に自己紹介を行いました。







## ●講演「教師に求められるワザとは何か――教育的タクトから考える」 (担当:鈴木 晶子)

タクトとは、触覚を軸とした総合的な感覚であり、判断や決断のワザです。講演では、19 世紀ドイツの教育学者 ヘルバルトが唱えた「教育的タクト」に遡りつつ、今の日本の学校現場において教師に求められているタクトとは 何か、またそのタクトというものを毎日の教育現場の実践を通して、どのように磨いていくことができるのか、その可 能性について考えました。







#### <参加者の声>

- ・教育的タクトという言葉は初めて知りましたが、教育が「人」とのつながりの中であるということや、結果や見えるものだけで測ることができない「人」対「人」の間にあるゆれに気付かされました。経験を通して無難に過ごしている日々なので、改めて自分をゆさぶって、経験を財産として未来に通じるようになりたいと思いました。
- ・日々、目の前の子どもと対峙していると、良くない表れやその子の表面に目が行きがちで、本来のその子を見落としていることは多い。経験年数を重ね、どこか経験知で物事を進めることが増えていることを反省すると共に、「記述」という手段で触れるように見る、聞くに迫れるよう一歩を踏み出してみようと思う。

#### ●研究科長挨拶

子安増生研究科長から「知育・徳育・体育」をキーワードにご挨拶がありました。また、マシュマロ・テストを例に セルフ・コントロール(自分自身を律する力)についても少し触れました。







## ●講義「パフォーマンス評価の到達点と課題」 (担当:西岡 加名恵)

パフォーマンス評価について、いくつかの事例を挙げて説明するとともに、「E. FORUM スタンダード (第 1 次案)」や「E. FORUM Online (EFO)」など E. FORUM の取り組みについてご紹介しました。また、今後の課題と展望として、第 2 次案への改訂を目指した取り組みを紹介し、パフォーマンス課題に対応できる力を育てるための指導方法についても検討しました。さらに学校のミッションに基づいたカリキュラムの枠組み、ポートフォリオ評価法の活用についても考えました。







## <参加者の声>

- ・指導要領の改訂動向を含む最新情報と、今までの研究成果のつながりを簡潔に教わった。筋道がわかった。 具体例のポイントを解説していただき、どこを、どのように見るのかを教わったので活用していきたい。
- ・改めて、普段の授業が知識面に特化してしまっていると反省した。生徒にとってかなり大変な課題を与えなくても、こちらの工夫でもっと教科の本質を伝える授業ができると思う。また、教科の枠を越えてもっと他の先生方と目標を明確にしていきたいと思う。

## ●シンポジウム「パフォーマンス評価の可能性を探る」(実践報告)

パフォーマンス評価やポートフォリオを実践している先進的な3校の先生方にご報告をしていただきました。その後、参加者同士で意見交換を行い、全体での質疑応答も行いました。フロアからは多くの質問や意見が寄せられ、パフォーマンス評価の可能性について活発な意見交換がなされました。

① 「小学校低学年算数科における思考力・判断力・表現力の育成を目指す実践研究」 (担当:宇都宮大学教育学部附属小学校 佐藤 綾子 先生)





#### <参加者の声>

- ・佐藤先生の報告で、算数の授業がここまで広げることができるのかと感銘を受けた。とても活発な子どもたちの様子が浮かんできた。私の授業でも、生徒同士が発言しやすい、そして学び合える工夫をさらにしていこうと思う。
- ・小中の実践を知ることができて、いい刺激になりました。小学校の算数は、私自身、中学で教えているので遠いことのように思っていましたが、実際話を聞かせていただくと、中学でも取り入れられそうなことがあるなと思いました。



## ② 「『未来を拓く思考力・判断力・表現力』の育成」 (担当:熊本大学教育学部附属中学校 田上 貴昭 先生)





#### <参加者の声>

- ・田上先生の報告で、学校全体として目標を持って取り組んでいらっしゃることが、実感できた。教科の枠を超え、 教員間で共通認識を持つと、学校としての魅力が増すと感じた。
- ・熊本大学附属中学校 田上教諭の実践報告に圧倒されました。特に体育の授業で考える力の活用を見せていただけたのが印象的でした。
- ③ 「学習者の自己学習力・実践力が伸びる教育方法・評価——パフォーマンス評価とポートフォリオの活用」 (担当:あじさい看護福祉専門学校 糸賀 暢子 先生)





## <参加者の声>

- ・あじさい看護福祉専門学校糸賀先生の実践報告では、教える側の方針の工夫次第で生徒が変わっていく姿を 見せていただき、私もまだまだ考えていかなければいけないと思いました。
- ・糸賀先生の報告で、「考える力」は小さい頃から強化しないとなかなか身につかないのではないかという自分の 考えが少し変わった。特に自己評価の低い生徒に対して、パフォーマンス評価等を通して自信を身につけさせ ることができれば、能動的に動くことができるのではないかと考えた。

#### <質疑応答の様子>









## ●クロージング

西岡加名恵准教授より、閉会の挨拶がありました。併せて、参加者の方々から勤務校で開催される研究発表会の告知をしていただきました。最後に、研修評価アンケートにご記入いただき、記念に修了証(2 日間とも参加された方)をお渡しして終了となりました。

皆様、大変お疲れ様でした!